

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200198
法人名	株式会社 楓
事業所名	グループホーム いしまる
所在地	福岡県福岡市西区石丸2丁目4-6
自己評価作成日	平成28年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年2月8日	評価結果確定日	平成28年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中で、残存機能を活かし入居者が得意としている事や興味がある事を把握して活動の中に取り入れると共に、新しい事にも挑戦してもらうように心がけている。
また、季節に応じたイベントを企画したり、散歩により肌で季節を感じてもらい、地域のイベントにも参加して地域社会との関わりを持つよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造平屋建ての落ち着いた外観は周囲の住宅街に違和感なく溶け込み、地域環境にも配慮された造りとなっている。県内で5カ所の地域密着型サービスを展開する母体法人との連携は、研修体制の充実や認知症ケアに関する知識や経験の共有等に活かされ、サービスの質の確保に結び付けている。開設して2年目を迎える中で、公民館に近接する地の利も活かしながら、地域や行政、他事業所との連携も広がっており、今後の活動展開が大いに期待される。日常の暮らしは、開放的な生活環境の中で個別性や外出の機会を大切にとらえ、心身の活性化に取り組んでおり、職員個々の個性の発揮も相互作用し、暮らしの質を高めていくよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と接する中で常に理念に沿える様、また個々に応じたケアを実践出来る様に心がけている。	外部研修への参加を通じて理念の重要性を再認識され、法人内全事業所の管理者が集まり、理念の意味するものについて、あらためて考える機会を持っている。利用者の方々の「これからの人生」に関わる中で、「できること」や「したいこと」を探しながら、理念の具現化に結び付けていこうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入はもちろん、互いのイベント時には互いが参加し交流を図っている。また、会議や勉強会で公民館を利用しており、そこで地域の情報を得たり交流したりもしている。	自治会に加入し、公民館にも近接している。地域ボランティア「ちよぼらの会」との交流を通じて日常を理解してもらい、災害対策等の協力体制作りを活かしていこうとする計画もある。公民館を利用し管理者研修を行ったり、運営推進会議の中での提案により地域への情報発信も行われており、地域づくりの一翼を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に認知症の理解を深めるための講演会の依頼もあっており、地域包括支援センターや民生委員、公民館と協力しながら取り組んでいる。また、介護相談窓口も設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況や施設内で起きた事故についても細かく説明し、その後の対策や結果を伝えている。また、意見、要望を頂いた時には迅速に対応している。	家族代表、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員の出席を得て、運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。また福岡市にも案内を行い、年に1回程度参加して頂くように働きかけを行っており、開かれた事業運営に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとも一緒に行える事を企画し、密な連携がとれるように心がけている。また区役所や市役所に出向いた際はそこでも情報を得るようにしている。	地域包括支援センターや民生委員の方々、公民館等との連携や情報共有を図り、地域への情報発信や災害時の協力体制も視野に入れ、相互に働きかけが行われているところである。地域づくりにも積極的に関わり、顔の見える関係性の中で、地域拠点としての役割を担うべく取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を開き、何が身体拘束に当たるのかを学び、職員全員が理解、実践出来る様に取り組んでいる。	玄関の自動ドアや居室の掃出し窓等、特別な制限は設けていない。公民館をはじめ地域との協力関係を築きながら、見守りや朝の服装チェック等を実施している。薬局より講師を招き、内服薬の影響や副作用について講義をしてもらい、家族との共有認識を図る等、心身の抑制への意識は高い。また、ヒヤリハットの内容を分析し、リスクマネジメントに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会において、虐待についての理解を深めている。 また、実践を通して気付かないうちに起こってしまう虐待についても指導している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて理解を深めている。 また、全事業所の管理職は法人内での研修会も開かれより理解を深めるようにしている。	法人としての連携も活かしながら、権利擁護に関する制度について研修計画の中に位置付け、理解を深めている。現在、日常生活自立支援事業を活用している方もおり、契約時や必要時には情報提供を行い、制度活用に向けた支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族にもわかるような言葉を使い、わかりやすく内容を説明するように心がけており、最後に疑問点などがないか伺っている。 また、契約後も不明な点があれば伺い迅速に対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やイベント時に家族と話す機会を設け、運営に反映できるよう努めている。 また、運営推進会議においても家族代表者に意見を伺っている。	家族の来訪する機会も多く、コミュニケーションを深めながら、意見や要望の収集に努めている。出された意見等については職員への周知と全体での検討を行い、機能訓練の実施等について日常の中に反映されている。事業所便りを発行している。	入居者、家族の意見や要望を、より積極的に収集していくための方策について検討していくことが期待されます。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を行い、小さな不満等もすぐに解決できるよう努めている。 また業務日報や会議等を活用し意見や要望を募り改善を図っている。 業務改善委員会も設立している。	風通しの良い職場環境づくりに取り組み、会議や個別にて意見や提案を収集している。芝生の中庭に畑を設けたり、職員の趣味活動(陶芸)をレクリエーションに活かしたり、備品の整備等、実際に運営に反映されている。業務改善委員会が設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が提案してきた事は否定せずに、まずはやってみる事を勧め、職員の意欲向上に努めている。 また、新人職員へはしっかりとオリエンテーションを行う機会を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別などは気にせず人柄を重視して面接を行い、沢山の人の介護に携わってもらいたいと考えている。 また各々に合った勤務体制で働けるように努めている。 採用面接時には、現場の職員も入っている。	現状として職員体制は安定しており、職員の意見や提案を積極的に検討、採用し、風通しの良い職場環境づくりに取り組んでいる。外部研修の参加機会や各種委員会活動、趣味を活かしたレクリエーション等、職員個々のスキルアップや能力を発揮する機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権と尊厳について勉強会を開き、積極的に人権について取り組んでいる。 また、外部研修にも参加する機会を作っている。	人権と虐待や権利擁護制度、認知症ケア、ターミナルケア等の研修を年間計画の中に位置付け、人権教育、啓発に努めている。管理者会議の議事録から、本人本位に基づくサービス提供やコンプライアンスの確保について、周知が図られていることが確認できる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験者と未経験者それぞれに合わせての指導やトレーニングを行い、勉強会で学ぶ機会も作っている。 外部研修への参加もあっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設と合同でイベントや勉強会を行ったり、西区、早良区のネットワークに参加しそこで情報交換等を行うことによりサービスの向上を図れるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、必ず本人に会いに行くようにしており事前に顔馴染みの関係を築いている。 そうすることにより、安心して入居してもらえ環境を整えられるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時はもちろん、入居後も家族と話す機会を設け要望を聞くようにしている。 また、迅速に対応していくことで改善し、よりよい関係が築けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを取り、そこで本人や家族の思いを聞くようにしている。 本人と家族が納得いく支援内容を考え対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で入居者様と協力しあい「出来る事」を行っている。 また、職員の見守りの上、入居者様同士でお世話をしてくれている場面もある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族へ手紙を書き、日々の様子を報告している。 また、生活に必要な物があれば家族に伝え持ってきてもらうことで面会の機会を増やし、精神面でのケアも心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、馴染みの場所などの写真を居室に貼り、面会や電話が出来るように家族と協力して取り組んでいる。 また、実際に面会はあっている。	在宅時の状況の把握に努め、居室作り等に活かしている。また家族との連携により、友人・知人を居室に招いている。地域との新たな馴染みの付き合いも生まれており、関係性の継続に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の出来ること、したいことを見つけ、実行できる環境造りに取り組んでいる。 またレク等で他者との関わりを持ち、支え合えるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に相談ができるように普段から家族との関係作りを努めている。 また、退去後の施設や病院にも面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と接する中において様々な場面で思いや意向を知るように努めている。 困難な場合は、家族等に生活暦など詳しく伺い思いに近づけるようにしている。	入居前の初回面接より、現状の生活の把握に努め職員間での共有に努めている。個人記録には、職員との1対1の場面で表出された思いや、快く入浴誘導につながった声掛け等が残され、主観的な情報を交えながら、職員間で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの際に家族等から生活暦を始めとする情報を得ている。 また、以前の施設や医療関係者からの情報もいただくようにしており把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報を元にその方の日課と一緒に作っている。 また、その日課に沿ってそれぞれの思いを組みながら過ごしていただいている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活を送る中で入居者の出来ることを見つけ、カンファレンスを行い、家族にも希望を聞いたうえでケアプランを作成している。 また、課題が変わればその都度計画を見直し変更している。	本人、家族の意向を踏まえ、医師の意見等をもとにカンファレンスを実施し、介護計画を実施している。SOAP方式を取り入れた日々の記録を共有し、日常の関わりに活かしている。研修計画の中に、ライフサポートワークを位置付けている。	「できること」に関するアセスメントに加え、「したいこと」につながる情報を記録する等、新たな視点の確保や根拠のある個別支援へと結び付けていくことが期待されます。また、本人、家族の役割や馴染みの関係継続等も盛り込みながら、職員間での共有を図り、モニタリングの効果的活用につなげていくことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケースファイルに記入し、職員間の情報共有のため連絡ノートを活用して意見交換など行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に対し、実現に向けて職員間で話し合い対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、普段のスーパー等への買い物を通じて地域との交流を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医の往診や専門医の受診など状態に合わせた診察ができるよう支援している。また、処方に関しては薬剤師とも情報の共有を行っている。	入居時に、本人、家族の希望するかかりつけ医について確認を行っている。協力医療機関の医師や看護師との24時間・365日の連携体制を整備しており、本人、家族、職員にとっても大きな安心となっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調不良時には、すぐに看護師と連絡が取れる体制が整っており必要な指示を仰いでいる。また、看護師もすぐに駆けつけ状態を把握している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の様子や情報交換のため病院を訪問し状態の把握に努めている。また、退院後の受け入れ支援についても担当者と事前に話し合っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望があれば看取りケアを行っている。看取りの中で、随時医師や看護師、家族と連絡を取り合いチームでの支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期に向けた事業所としての方針を説明し、意向を確認している。状況の変化に伴い、家族や医師を交え話し合いを重ね方針の共有に努めている。ターミナルケア後のカンファレンスでは、個人の人生に関わることの意味について振り返り、支援への意識を高めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を通じて急変時の対応を学び適切な対応が取れるよう努めている。また、連携医とは24時間いつでも連絡が取れる体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い緊急時には迅速に動けるようにしている。 また、地域の方も駆けつけてくれる体制も整えている。	災害対策委員会が設置され、主に夜間を想定し、入居者全員が参加する避難訓練を実施している。自動火災通報装置の連絡先には消防団も含まれており、地域のボランティア団体との交流を災害対策にも活かしていく予定がある。現在、委員会により、災害対策マニュアルの見直しが行われているところである。今後の協力体制の発展が大いに期待される。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の立場に立ち、気持ちに配慮しながら誇りやプライバシーを傷つけない声かけや対応を行うように心がけている。	プライバシー空間としての居室の位置付けや、個別の時間の流れや居場所の確保に留意し、個人の尊重に努めている。排泄ケアや入浴時の対応、洗濯物の管理等、プライドや羞恥心への配慮に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを必ず聞くようにしており、職員本位で決め付けず入居者自身が自己決定ができるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに合わせるのではなく、入居者の動きに合わせて心がけており、普段の会話の中でやりたい事や好きな事を聞き、希望にそえるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容サービスを利用している。 また、服装については入居者と一緒に選び、化粧等のおしゃれができるようにも支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、片付けなどの手伝いを一緒にを行い、食事を楽しみにしてもらっている。食事形態やアレルギーがある方にも個別の品を提供し対応している。	手作りされた個別の茶碗が用意され、半調理品も活用しながら、バランス等に配慮された食事を提供している。食材の買い物や味噌汁の味付け、時には包丁を握ってもらい、「食」のプロセスを辿る機会もある。フードコート等へ食事やスイーツを味わう機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録に残し、把握に努めている。 疾病によっては出来る範囲で減塩をしたり、摂取量が少ない方には声かけや好きな物を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底し、必要な方には歯科往診を依頼し口腔内の清潔保持が出来るように支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し失敗なく排泄が出来るように支援している。 また、オムツやリハビリ使用者には使用が減らせるよう働きかけている。	排泄チェック表を用い、個別の状況を確認、分析し、排泄パターンの把握に努めている。おむつの必要性を再検討し成功事例を重ねており、自立している方も多い。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りのおやつの日には乳類やフルーツを取り入れるように努めており、水分補給を促したり日々の生活の中で可能な限り体を動かしてもらう支援をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂に入りたいと訴えがあれば出来るだけ入ってもらえるように柔軟な対応をし、入浴中もゆっくり話をしながら気持ちよく入ってもらうようにしている。家族が温泉に連れて行かれている時もある。	毎日のように入浴準備を行い、週に2、3回は入浴できるよう支援している。希望があれば、毎日の入浴にも対応している。毎週のように、家族と共に温泉に行く方もおられる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように日々の状態把握に努め、一人一人に合った休息がとれるように支援している。 また、日中もソファー等で寛がれる方もいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を更新の都度ケースファイルに綴じ、いつでも確認が出来るようにしている。また、不明な点は主治医や薬剤師とも相談し、薬の変更後の変化も記録に残している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に役割を持ってもらい生活を送ってもらっている。 希望があれば、買い物や散歩、海岸沿いのドライブにも出掛けている。 定期的な外出行事も企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から散歩を企画し戸外に出るようにしている。 また、買い物等は入居者と一緒に行くようにしており希望の場所に行けない場合は家族の協力を得ている。	暑さ寒さや季節の変化を五感で感じながら、日常的な散歩や近隣の公園、中庭での体操等、外気のふれる機会を大切にしている。季節の外出行事や買い物、ドライブ等を支援し、家族と共に毎週温泉に出かける方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は自分の財布を持っている。 また、外出時にはお金を使用できる機会を設けている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話ができるようにしている。 また、自分のケータイ電話を持って家族へ連絡している方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時の写真や入居者の作成した作品等を掲示し楽しめるようにしている。 また、居たい場所でくつろぎながら音楽やTVも楽しめる空間を作っている。	玄関には、職員の趣味を活かした見事な陶芸作品が飾られ、来訪者の目に留まることも多い。中央に中庭が配され、木の質感や温かい色調で内装が統一されている。ソファや食卓その時々に応じたくつろぎの場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファやイスを配置し自分の居たい場所に居れるよう配慮している。 また、ユニット間を自由に行き来されて過ごしやすい空間で過ごされる方もいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、これまで使い慣れた物を置いていただくようにし、以前の生活と変わらない環境作りを家族とともに工夫しながら行っている。	掃出しの窓が設置された開放的な居室には、鏡台や仏壇等が持ち込まれ、以前自身で撮った写真作品や針箱等、思い出の品や馴染みの物が持ち込まれている。洗濯物が干されていたり、窓の外に専用の花壇を作っている方等、自由な暮らしの形が見えてくる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の「できること」「したいこと」を一緒に探し、楽しみや役割を持ってもらえるようにしている。 希望があれば、包丁やハサミを使用することもある。		